

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人 源勇会		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	佐賀市川副町大字早津江263番地 (電話) 0952-34-7311		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年9月10日	評価確定日	平成 20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 人, 常勤換算 12

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000/39,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.33 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	枝国医院 たつの歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた田園風景の中、通りから一步なかに入った静かな場所に、落ち着いたたたずまいを見せる平屋建ての施設である。建物の中庭には、四季折々の花を咲かせる花壇があり、それを囲むように居室や食堂、ホールが配置され、そこから、季節のうつろいを感じることができる。医療法人を母体としているので、同じ敷地の中に病院、老人保健施設も併設しているので、入居者や家族は安心して生活することができる。また、ひとり一人がその人らしく、役割をもって暮らせるように援助や支援が行われており、その中で職員も入所者も笑顔で生活をされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点を踏まえて、職員で取り組まれているが、施設側だけの活動では難しい部分もあり、今後の働きかけがより必要になってくる。運営推進会議は定期的に開催されており、それを軸として地域との交流が広がりを見せている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全体で行うことにより、施設のサービスの振り返りや評価、サービスの向上に対する意欲がみられる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議は開催されており、グループホームに対する地域の理解や役割を知ってもらう機会となっている。参加者について、入所者の家族など、地域のいろんな方々に参加してもらうことによって、より地域との理解や交流が深まることを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱等も設置されており、家族からいろんな意見や要望を訊いて、施設のサービス内容を向上させていこうと意欲がみられる。まず、家族の心情を理解し、勉強会やミーティングの折に職員間で話し合いがされる他、要望に対する回答も伝えるようにされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議のメンバーからの提案により、地域との交流が深まりつつある。地域の秋祭りや、学校のフリー参観に参加する試みなど、地元の方々との交流が始められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、その人らしい暮らしを実現する為に、グループホームの理念が作りあげられている。それは事務室や食堂に掲げられており、毎朝の朝礼の時に目標として唱和されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、食堂と事務室の職員や入所者の目につく所に掲げられている。朝礼の時に理念を読み上げる職員が、自分の目標を自ら選択し、理念の実践に向けて主体的な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議により、意思疎通が図られつつあり、地域の秋祭りや、学校のフリー参観に参加する試みなど、地元の方々との交流が始められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス計画責任者が、現場職員の意見を聞いて自己評価及び外部評価を、サービス向上に職員と一緒に作り上げられている。評価を考えていくプロセスの中で、具体的な改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議は開催されており、ホーム内の介護サービス、行事への取り組み、評価や報告などが行われ、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者、地域包括支援センターとの連携は図られているが、よりいっそう担当者と気軽に相談できる関係づくりに努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭関係の出納状況は、定期的に請求書を家族に送っている。また、入居者の暮らしぶりや健康状態についても、2～3ヶ月に1回、手紙や報告書を送っており、家族の面会の折にできるだけ、近況を話すようにされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情箱等も設置しているが、家族は、施設に対して率直に自分たちの意見を言いにくいという認識に立って、家族の心情を理解しながら意見や要望を聞きだす努力をしている。勉強会やミーティングの折に職員間で話し合う他に、要望に対する回答も伝えるようにしていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や法人内の異動があった際は、入居者への影響を配慮し、他の職員がフォローし、対応がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と管理者が話し合いながら、職員の意見を聞いて、職員の段階に応じた研修への参加が図られていた。法人内の研修をはじめ、施設内でも定期的に小さなテーマで研修を行い職員を育てる試みが続けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々人の職員間では、同業者との交流はあるものの、事業所間での交流、ネットワークづくりや交流は行われていない。	○	地域のネットワークや近隣の施設と交流することにより、施設処遇を見直したり、サービスの質の向上を図られることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活をしていただけるように、入所前に施設を訪問して雰囲気を感してもらい、本人、家族との関係を徐々につくりあげていく努力をされている。本人のこれまでの生活歴や性格などアセスメントを積み上げていくことにより、馴染みの関係作りに配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に運動をしたり、食事の支度をする中で、話しやすい雰囲気作りがなされ、喜怒哀楽を共にする関係づくりがされている。また、利用者の人生経験から学ぶ姿勢を常にもって対応されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の生活歴や暮らし方の希望を聞きながら、利用者の思いや意向の把握に努められている。自分で意思を伝えられない方は、その方の性格や行動を理解して、本人の思いや希望を会議やミーティングの時に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、それぞれ担当職員と計画作成責任者を中心にスタッフが話し合いを行い、介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね、3か月に1回定期的にサービス内容のモニタリング、計画の見直しが行われており、変化があるときは、随時、関係スタッフが集まって話し合い、サービス計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の老人保健施設や在宅介護支援センター、通所サービス・医療機関と連携を図り、家族の状況や要望に応じて柔軟に対応されている。相互の訪問や外出支援なども活用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、併設の医療機関のかかりつけ医が多いが、家族や本人が希望や病気の種類によってはそれぞれのかかりつけ医に受診できるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族・主治医と重度化した場合や終末期に向けての話し合いはなされていたが、それを共有した指針等は示されていない。	○	施設として重度化した場合の方針を明文化し、早い段階から話し合い、全員で認識を共有化していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに声かけする時も、腰を降ろして、相手と同じ目線で丁寧に対応されており、日常のケアの中にプライバシーを損なわないような配慮と注意が払われている。記録等の個人情報は、すべてスタッフルームに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、本人の気持ちや希望を最大限に守るようなケアがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせて配膳やかたづけを一緒に行われている。夕食は、夜勤者と一緒に摂っている。食事の時間は、ゆっくりと食べられるような雰囲気づくりがなされており、職員と一緒に食事を楽しむ配慮がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回午後より入浴が行われているが、本人の状態や好みの湯加減・同性の介護に気を配られ、入浴を楽しんでもらう工夫も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや掃除、おしぼりたたみ、他の利用者のお世話など、入居者がそれぞれの能力に合わせて、役割をもって生活ができるように支援されている。そのことで日常生活の活動リズムも整えられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2回ほど、ドライブや買い物に出かけている。季節がよくなると弁当をもって外出することもある。運営推進会議のメンバーからいろんな地域の情報をいただくこともあり、戸外に出来るだけ出られるように支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関など日中は、日常的に施錠は行われておらず、開放的な生活空間が確保されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の併設施設で年1回、入居者や職員が全員参加で避難訓練を行っている。昨年はホーム単独でも避難訓練を行ったが、地域住民への呼びかけは行わなかった。	○	運営推進委員会の協力も得ながら、近隣住民への呼びかけや協力体制を築くことにより、災害対策をより強固なものになるように期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の施設の栄養士が作成したメニュー指導にもとづいて、利用者一人ひとりに合った食事を提供されている。摂取量減が続く時は、好みの物を取り入れたり、医師に相談したりされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中央に中庭を配置して、その中には季節に合わせて花壇が作られている。中庭を囲む窓は、すべて大きく明るい開放感あふれる、居心地のいい空間が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自分の家で使っていたものなど、持ち込めるようになっており、写真や本など、利用者のお気に入りの持ち物が持ち込まれている。		